



ロータリー：  
変化をもたらす

2017-18年度 会長 西村昭宏  
副会長 井上登  
幹事 糸川佳男  
会報委員 瀧本吉也

## 本日のプログラム 第2168回例会 平成30年2月8日

ソング：我らの生業

行事：会員卓話 濱田瑞紀 会員

## 第2167回例会 平成30年2月1日の記録

### 会長の時間 西村昭宏 会長



皆さん、こんにちは。2月に入りました、今年の冬は「本当に寒い冬」が続いております。今年は昨年からの早い目のインフルエンザB型から始まりA型も入り乱れての、大流行になっておりますが、会員の皆さんも手洗いやうがいなどの予防をして、お体にお気を付けて下さい。皆さんは、昨夜の月は見られましたでしょうか。150何年かの月食でローズムーンと呼ばれているそうで、私も寒

皆さん、こんにちは。2月に入りました、今年の冬は「本当に寒い冬」が続いております。今年は昨年からの早い目のインフルエンザB型から始まりA型も入り乱れての、大流行になっておりますが、会員の

【まないたさま】  
天の真名井戸がなまってまないたさまと呼ばれている  
ここは古くから婦人病や子宝に恵まれない女性が願かけにきた神社。産田川上流にある。



い中、外に出て見てみましたが、周りの星は鮮明に光っておりましたが、月はぼやけた感じに見え視力の悪い私が、メガネをはずして光るものを見た時の感じでしたが、時間が経つにつれ、薄いピンクからオレンジ色に変わってまいりました。肉眼では、なんとなく月も欠けているのかなぐらいでした。今月のロータリーは、「平和と戦争・紛争解決月間」となっております。本日は、国際奉仕委員会卓話となっておりますので、野地委員長、後ほど卓話の方よろしくお願いたします。本日も沢山のご出席ありがとうございます。

### 幹事報告 松本幸恭 SAA

- ▼伊勢南、津南ロータリークラブより例会変更のお知らせが届いております。
- ▼2月のロータリーレートは1ドル110円です。
- ▼直前ガバナーの 田様より会員増強セミナー講評についての書類が届いております。
- ▼ロータリー日本財団より確定申告用寄付金領収証が届いております。
- ▼木村静之（きむら きよゆき）ガバナーエレクトよりサンディエゴからエアメールが届いております。
- ▼RI 日本事務局より財団室ニュースが届いております。
- ▼東京ロータリークラブ会員の熊平雅人様より「抜粋のつづりその七十七」を戴いております。
- ▼山川勝様より熊野市副市長退任のご挨拶状が届いております。
- ▼伊勢中央ロータリークラブより週報を戴いております。

### 国際奉仕委員会卓話 野地俊行委員長

皆さんこんにちは。今日は国際奉仕の卓話ということで、私からお話をさせていただきます。国際奉仕は、外国人が関係してきます。その時に大事なことのひとつに文化があります。お互いの国の文化を知り、お互いのその文化を認めあうことが基本となると考えております。私はイギリスに11年住んでいましたので、今日は、その経験及び学んだことから欧州北部の文化と日本文化の違いについて話をしたいと思います。それか

ら4月には、熊野市に住んでいるALTの方3人に例会に来て頂き、彼女らが、日本で体験したアメリカ文化と日本文化の違い、今、困っていることについての卓話をお願いしています。



文化を語る場合は、色々な切り口があると思いますが、今日は宗教とヨーロッパの自然環境から欧州の文化を話し、日本の文化との違いについて話をしたいと思います。まずは、欧州の宗教ですが、現代は、一神教のキリスト教が約76%を占めております。只、歴史的に見れば欧州も日本と同じ多神教でした。では、なぜ、欧州がキリスト教になったのでしょうか。それは、ローマ時代、ローマは領地を拡大し多民族国家を作り上げましたが、この中で、国を一つにまとめる為に一神教が必要となり、それがキリスト教だったのです。キリスト教には、2宗派があり、欧州のポルトガル、スペイン、南フランス等の南部は、カトリック、イギリス、ドイツ、オランダ、北欧等の北部はプロテスタントです。この二つの宗派の考え方異なっています。カトリックは、恵まれた自然の土地で得られた富は神に返すという考え方。そして、労働は、原罪を持つ人間に与えられた苦役であるという考え方。一方、プロテスタントは、利潤を生むのは、労働であり、労働は人間の喜びである。そして、それによって得られた富は労働の正当な対価として人間の手に入るという考え方。この考え方から「資本主義」が誕生している。一方、ヨーロッパ北部の自然環境は、土が少なくその下は石である。それに冬が寒くて暗い（ロンドン、パリは北緯50度前後、東京の北緯は35度、札幌でも42度。このような土地には、牧草くらいしか生えない。そこで可能になる産業は牧畜。しかもヨーロッパは基本的に個人が土地を所有して牧畜を運営する「個人中心の文化」であった。牧畜の場合、家畜一頭に対し土地3000坪。一家が生活出来る家畜の頭数は100頭で、牧畜業を拡大する為には、広大な土地が必要であった。そこで、彼らがとった行動は、広大な土地を求めて、海外に進出することであり、これがいわゆる「フロンティア運動」と言われるものである。従って、この国民国家による海外進出は、15、16世紀のスペイン、ポルトガル主導の大航海時代と異なる。大航海時代の海外への進出の目的はキリスト教の布教で、キリスト教信者を増やし、各国の国王が王朝の富を拡大するとともに

にその富を法王に献上することであった。それに対して、17世紀のイギリス、ドイツ、オランダの国民国家による海外進出は牧畜文化の本質である「外に進出する力」において、海外に、テリトリーを増やすことを目的としたものであった。これらのことから、欧州北部の文化は「牧畜文化」で、個人、家族が中心の「個人主義」で外交的性格を持っている「攻めの文化」。この文化を継承している皆さんが良く知っている人物はアメリカの大統領のトランプ氏です。技術面では、海外に進出する為に、必要であった航海技術、武器、通信技術等の発明を得意とする。それに対して、日本文化は「農耕文化」で、元々、「村」が中心で、生まれた土地に生涯生き、助け合いを基本とする「集団主義」で、どちらかと言えば内向的な性格を持つ「守りの文化」と言える。現在の日本の安倍首相は「守りの文化」を引き継いでいるように思います。技術面では、住んでいる村の中で出来るだけ多くの水田を増やしたり、品種改良等の改良技術を得意とする。まとめると、欧州の文化は、個人主義に基づく「攻めの文化」で日本は集団主義に基づく「守りの文化」と言えるのではないかと。次に、このような、文化の違いからくる習慣の違いの例をいくつか挙げてみると。

1. 欧州では、人前でも夫婦が愛していると言いながらキスをする。常に言葉と行動でお互いの心確かめ合う。日本は以心伝心が中心
2. 日本には旅館があり、友達同士数人で同じ部屋に泊まるが、欧州ではホテルで個室
3. 日本には大勢で入る温泉があるが、欧州では一人が入る
4. 車の色も日本車は、数種類の純色に限定されているが、欧州車は中間色を含め色々ある。服装も同じ。
5. 海外赴任者の海外での生活では小社会（リトルトウキョウ）を作り、閉鎖的
6. チームワーク考え方が異なる。欧州は個に主眼を置いたプロ集団をつくるのがチームワーク、日本は助け合いで総合力を高めるのがチームワーク

### 諸事御祝

お誕生日： 松本幸恭会員 尾崎しほ子会員  
結婚記念日： 濱口佳文会員

### メイクアップ

1/27 ガバナー杯野球大会運営検討会 大崎順敬会員、中西政貴会員、山口哲生会員  
1/31 尾鷲ロータリークラブ 朝尾高明会員

### ニコニコBOX

会長…本日もありがとうございます。  
尾崎しほ子…お誕生日の御祝ありがとうございます。  
松本 幸恭…お誕生日ありがとうございます。  
濱口 佳文…28回目です。



### 出席報告

森本健一 出席委員長  
会員数 36名 出席数 18名 欠席数 18名  
出席率 50% 修正 63.89%

### 次回第2169回例会

2月15日：③ガバナー補佐訪問  
尾鷲RC合同